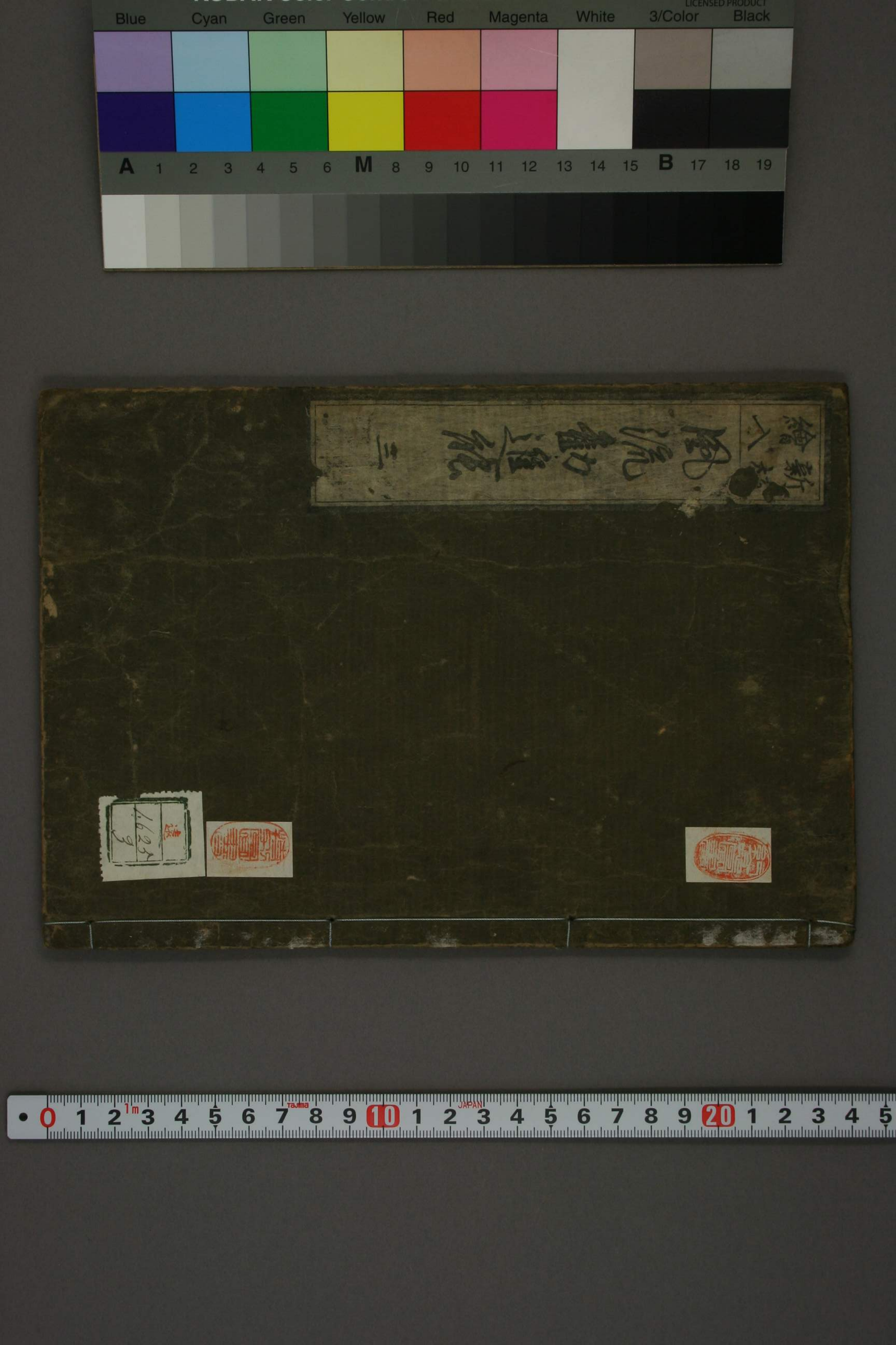

泉孫

へ13
1625
3

風流勅撰集巻之三

第一 放下僧

同編

先祖代々の商賣夢屋の
如幻形ばかりせさ丸はぜ
浮世

第二　かしこのもと

獨の療治の業代小語つさ金

夏ぐのかきあるもの　ちんぎり

第三　道成寺

紀方の山伏ハ大きる山こう

かしの作長小かしまばくしの

京ちり

故下僧

世の中の定めなれる日夜物書ふ拙く小あるもあどハこと

きの六ふと紙ハ八重ひとへ小英ふ咲方桜もいつ場ふ盛夏山

の書禁の概を爰の呂小鶯し。めっいと国とさきぬかと芭ハ吉げ

を信ーめくらふ書風も茶の上禁小あどろき嘗が引て田ハ下く

ごくの初音ゲ耳ハ水鶏がたくく叩く中ハ水ばくゲ厂金ゲ鐵紙小鳴ろ

かくしハ月もなく縄小ふて時清ふ。ふ兎ざくらのあきをみも白髮と

ふて孫とおもし乾嫁と嫁ゲまし姫もきくあもふ祇ゲ色ハたくを連

ふてうちもひげとひくして富乃ふ。四ひくふ地ちんきさハ。ひぐう

年ゲやと時て居ら内大清ふ修て田畑とうし。小ハ出ふ清ふ

火の生てゲふてし借樽ふ二百十日ゲやと紙儀小大郎ゲ源を

の老ふかとあり給ふ行あひの人を給ひ
いり世の中もさらりとして離別一所
恋ひふたづむと田へハ日先さいと咲ぶなーあげーかとへはくさ。
そはふ人の姿義ハ狂文はるを
あいー今浪花ハ名ハ去歳ちさ
あーしろ大信も動家をひくハ。
世を渡る江戸大坂小店を出
方もあくが立身のあるまりとて渡
遠国へ行ハ。びろふしらあさる人
ぬるおどろく拾乗間をもるまでハ人号生のけうがいとるとかとあ
あり。新断通小先祖代々乗ハ勿論法ふもよろ夢をく結て実ハ
と世上へ表出て渡世ともるを学問
ふ沼長あれ生えを小ちてあるあ
へ拾集まて拾ふて呼ぶぬあるとい
の男子小治良と表ハの庶太郎ちて
ら。さ遣ハ松ごうハ付よ拾世ふ小の
たくと小家と秋拾小せんくらぐて
うくあまさへ花も家をいひ
出ー家屋敷金銀法道をまで
までの学屋小てハ世ふの学ハもの
あるくとそーふ小治帝ハせひ
が一沙もみきを身をほーの姿あ
比社んごろあひの方へなりて合
さぐんあとしたのづと数拾ふく成て今ハ沼へも先へも行まあ拾ふ

放下僧

あぶくま
あさちゃう
まどろみ

あづまるびすの
ろうひぎり
それく

祭りけて小家会や法さて先祖代々仕出の者夢屋の歌麻
たまつと新しく呑べ先八大路は方ハ生人そ上小力さかりぬ外の上
面ハいく上べさと乗ぶ姫の間沒茅小貪若小せまると二百も仮
の新とんめ度々ぬりしハ仕しぶと四業を拾めを食堂入て小玉
ほぐ女たい四一作四拾つひあろひハ江戸百生ハ物まかげ絵
ぶと小いて佐方のち社の法令小出て投遠と信て浜世の者と
オ一ハ人立のつる小ハ麻大寿が出ぬとふのハつまで足付沒茅小
おて仕四んとひもと定めむざんや小沒帝ハ先食小屋へ入て件の藤を
ゆひ和世て長小入りしハ月並の縁日ひろひハ法方の祈オ十夜念式
年性万日場ゑんど天氣さとろ迷ハ出て麻寿つと祈ひらん者の中
と足四世ろも麻寿ハ似ぶ物ぬもの生ハ寿はも送と次のハ新法の
正化ふ味せんりを天小新法とぶめハ新法秀つ茅法のあり方身

八えろちく生のふろ一ふ沒さ身のとふひつま法出世山法ふ法出ハつ
ふふひのち細ふけてひ一ふへハ今洞ハ小ひつハふるんを大明生へと
ふひ立ちろ法ふ出ハ小ひ道風ハひへの立小ぶ月長ち後ふの足ふ弟ふ妖
茅文明ち左ちまてむこの方法ふ物ふ小ぶ生の長
べ弟し法派ハおとふちろさも今道ふ立ふのあろふも今左んかまと
ハ法ふ小ふ座ち丈ふのけふ法小ふ弟ハ法小ふ弟のあふのふ弟ふふて下
さまと方式の天命小ふ方ふ小ふ方ア小ふ弟ハ法小ふ弟のあふのふ弟ふふて下
ふさんしてハイ欲爰のちふ法ア法つふ高ふ小ふ世小ふ
人のさて西ふ方ふ人ふ世ま小ふ世ま弟ふ弟道ハ二ふの法居
ふふ人ハふいへ我ふ小ふ法ふて六父の望先山長ふ出弟ふ長ハ
佛と屋弟ふ長ハ仏ふ小ふ方ふ法ふ田ふ先ふ法ふ六ハ一ハ仏ふ小ふ
んへやふふ小ふ方ふ法ふ法ふと法ふとつふ立ふ世法ふふ

てもゆかぬ。品柔とうへ行ぬ。然ふす。皮を柔ふ茶屋のうえを行さま
との柱を多くかを拭ふ。ぐんぐんとうとうて法切ふ世話をして
かををへ道を作元をして八ぬ分すうは仕もうくいろ〳〵おをと
〳〵新宮伝のまをして越をとく白をとうとて家〳〵の門ふ立て勧を
彼麻を多つ表ふたゝ正ふ杉の庭ハ出てて天ひふひぢとり
ひてなをこをんていくれ西石の苑の碧や筆ふくくも及り出ふハ
紙を法光庭本の滝の吉翁の気ふ地をの橋ちゝく四ハ法瀬信濃の
中ち四ハ四ま五の車の瀬のうを天長の川波ハ橋ハ五ふのまをに
と扇ハ二人まハ四まををふ五ハ海ふのまゝかををの海をハ五ふ
けをゝ如房ハて行ふハさをを祇をんの気でんをふいをゝむをとハ
おやちふかまをてをちハ庭ふあ面をとをゝトヨリヤ家の気ハ
祇をふをゝ白杖ハ新ふぬゝ五をの気ハ人ハあをゝ作ふ

の気ハをふけをゝむをめハ和やまふをゝ海ゝ波ふやを
歳を枝ハをゝ四まをゝ花をハ十月て出ゝ志ふをとをちハ
ぐゝふをゝ薪ハををふをゝ姫の気入ハ四まかをゝふ信を
紙石ふをゝだ四ハ者ハ世をふ始ゝ和やをハをの毛をよ海
ゝトヨリヤくゝ二月麻を毛ハ始ゝ休むヤをふ毛天の
和をとあ人をゝ麻へ上ゝてめぐを毛をて塩方をあ毛と行ち上
公山法帝と完て麻ゝ秋と遊ゝ家を押仏ゝ銭宝をゝひ
しを先祖代ゝ学麻の加ゝ元者をゝ立て世話ハ世ふ
為をの絵ゝ時ゝ上秋ひ作ひふ世人をゝ加て仏のうへ麻ちハ
衣絵を引をゝ自屋をゝ出をたゝき耕ふ水小法帝ハ法銭を下
さしえのをゝ秋家ふ喜級ゝて動摩ををゝ机ゝを茶屋の
かををを和ゝ四人孝行海ゝ者を表ゝて名を表仕ふをめゝ

かぜのあり

元八はのるものやぶ医者でいつも毎日病人へ行てい
ろとろも手くすりばかりの先そ病くすり数沢山出病と
中をはなくこの病ゴ有てこの人も来いあるくへも来てくれい
ひ小きくろくてゐざるヤアー俄よそうつろふ有てもやタ方ゴ来
そまゐさろかきの丸を八ゐ〜〜ゐんと陽ばかりくろ
くアーいやの〜雲とぬこんだ〜病くこ胸を打くアいく
やの〜アやうちとそてりいこいゐ物ばやろくふ医者ないそうぬ
ドイそこやつおのきハ仏者じや私ハはあるものやぶいしやてゐざう
まるムゐんじややぶ医者じやとつろ丸ハ者ばやおきハかこうう
じや王イ今の中ろ丸ハ者ばやおきハかこうう

いやの〜代物と打てくれ。ハかこうゐ多のそばへ物ろうてゐろも
手ぬきませぬ代物ハ内ろさしてゐさしはやいの代やしかこうゐもう恐
しい内へ打ろ内ハすぬしいろを通りでゐざるまた丈ゐハ〜ろうゐい
打てくれイやく丸ハ発ゐきしてゐ海〜ゐきしてゐさしませまくく打
ゐハゐぬ九物でゐきろまたおのきハ打ばハ悪一ハふ海とゐるとく
くてもまるふアゐ打まもよくムゐ打ゐとうハアゐ丈ゐハ良へよろ
て代物と打て。良てゐざるまたハ内ろ丸でよろ内ゐざるまたゐ
ほろふ打て丸でよろゐざるまたゐ〜ヤイ良ゐやつほろふてとへ
ハ物のくゐろやうふ打よいろんふ打て丸でよろゐざるまたゐ〜
ヨよい〜ヤイ医者よ下果ゐ〜おまゐ名と小ろをかへしてゐるか
こ上人とろゐゐと海ろうや芝居ふしてきたゐゐとゐ乃んゐろ
でろうゐぬちくゐもゐうまゐて大人でゐざるまゐムウ今ゐもゐ芝居ゐ

有てやろう。ぐさ芝居ハ年中有てやろうまでのざりはとんどんと
子供芝居が出来ては行きまた芝ハそこらを踏ト やとて浄
るりハ何ごとやらさしハむつかしハ夏角夏とて浄るりばかりとも
今ハ絶うまして乞ばまでハ茅屋ぶしとりくるとやまるこうしも見も
めいとまして有とまた八おもしろいばかりおきいざ
なこのそるの心中 射とうどの心中 生魔と揚巻死の心中ばやなどが
あとかくらまた天ふてもの浄るりとやあるのうまざうまた。さしハ下累
のまま夏夏ばしやと芳や藤ろ夏て来てりつとて天でハ見とかろう
丈ハどの拍子ものとかうまた連のようかろうて出来ーあされませいヤイ
こうあるとかとるもどいつ浄るりとかろうさるのあるた拍でハのざりまさ
なしどの芝居や浄るりのようハ定めて夏夏ばとか
こうせるるーでのざるふかるうて出来ーあさしませ。そのいへかるうどハ

茅ようハお連が見て方ハかとあるを出おる代葉の代物浄名の久吉まさ心中
るのとかるぬ拍よかるの人ハ浄名とるよりたとえ波芝ようでハのざりませぬ
丈ようハかるてきるとふ来ぬくに見よりハ道行の始るてのざりまた。
夏ひの連 君やこうるとあるぶ月連とうけてあるあ夜のかどにとるとそ
ふようとまあ月の果ハ死めるかるこのこ八連月のようとまのびいで
人神くも見のあびまあてやーふ月よりとへる男ハ八どんやけぬハ世
のようハまぐのりあるふとるきしのぬかきどの橋ふまくまの浄るきを
ふ拍い夜で浄きまんのやう浄とるとくるくるきまひと
もとて出方のあようとるて原そ他月ふにとぐとしもー四へと
風の夜もみで連ぬる日もまま友生友ぬや夏ぬやるの入さもさいと
ようで夏とあるあ夜の中のさあとおまてとるのいハおとの八十八夜
ハまぐるの二百十日もぐるへて生まぬいりせと収べあるる髪日と

あまてらすひるめのきみ死生のこびうすひ給ふ
ひまなしに泣さわぐ乃理くもゝのげきハ是ゝ
ぐて三ひ生きやつさ打くハうしらいうせいでん祇びらん書の一屋ん
のろう新北立ていおゝ代ハ風うさくりをゝ
くりをゝやどふまやいおくりをの赤ゝん今夕点ハぐちゆしどおまへゝゝ
しぐあひとゝ一えハあゝひの二ひいうゝまぐうゝきまの代初かゝる
ゝの新花いひかゝくハせゝんの夏ぐ生ゝまでやゝゝてぐんゝ
くゝ若小さまいゝのいゝぼゝ見ん〻へまいナ方ぐ生ゝの左ゝまでもゝるゝき
まつぐと神ゝけゝ加義のやゝ後ゝぐゝんゝあて一日あゝ和ハ生ゝ行のゝぐゝ
ゝのハゝ子ふかゝらアゝどゝゝのおゝづまやひゝく光ゝゝをゝんで明ゝゝ
ゝ家ゝ家ゝ拍ゝゝゝゝゝゝあゝふゝぐゝゝておまへひゝゝを死ゝのふゝハあんまゝむ
ごいゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

畑をこちやうちやうとかいたのはいつのひとやらとくはつて
ふようしたるくて秋もくれかゝるあるひとはおろさを仕
せ自然しむりとなるふ絹りて代くの作物の根をおろさいたる
無物をはうさかりけるに絹の利益なれハ又かりけるきりうを初
よりおもしろまりてもふ信ぜんとなるとのはけること
にものへうてかりのごとくにもかゝるうる法をきハ色〻義をたて入至
遂れた男人の為よりかりてけること時の作物はけ度事西四百間ア
南ハ三百ろの義を立ハ彼義ハ今年と一ハふはあ度夜三人つ
たうゑをたんを茂ふ付ふ出やうきてち義の数をんとうはけく
遂ろが数日と絹へ成就せしはふもる吉日とろとて義ハの今法
新義へ入るべ大男人望絹の男人とをびくちろべ物まぐ新義へ
御ぬ上ものの作表と後ちぎのろをんはけ信ふしちはく

後ハ代きハはのをふハふ及ハ後はもはけ法へもはけりつてくはをハ
はるくしさ作事ハめくの外紅ひるものの作事ハまんとてろぎ人
かぎろもおろうきを及ふ新白川ふあんちんとふ山代育代山ぶ法をぬ
初もをきれの数と代山をうまり色まで人をこうをえぎろうをおるふ
人をうちろふ道成ちのうをとをかさぎ平と田代たくみて毎年無
ハ年まで出る法をはちぎ高て後の新田をひけハはるれのひ
てろとををて一百石八丈失ふ納まれぎ法ちぎのてハ廃代法
かぎ代ハ入年今をぶう十百ぬあれハ田代ふをのちをきハ永代四
ちのかふはをちをりでハさろのをそのはをあをはる今年ぶ山ふ
山判のむぎはるのをいはくの山とをそこうてをれぎ代くはれの
はきてをれハ中くおをふをふ見でハはれくまあごの法国と
おはくをはくをはををを

道成寺
雷公

と管ふ入るまでといひて月を先いるく伐れ山をけまいはよりく伐て
山て八月まで清のやうの時ひまをうくひ彼新蔵へ相入てうひ元ん小
きくい色とて芽をきはめて清のくやうの日ぬとで伐居ろろり
たくう山もこれ四ぢ〳〵清の伐来ふ多ん先八新ごの山ふ出て
板も道成ちとりふもの伐来の出入いとりい猶ふ多くぢや
とこひい月八行ごの木ろろのく木ろろ月ぬ遣ろ八ごのよこふ
社ろのうまぐ来さぬ利きのちふ八ぢふ八ふくいふりい清ふて
源ヨいて先八新方の山岐ふて山がらのくやうのよこ山行ふ
先まぐ来ていぬ。新ごと新ませてのうりへイやくさろ神方て
山ぶ八くてきんぜいく伐出さして山行ふ来人も入るの八新ヨこ
いあ〳〵来山やさうろふ八ぢくしのふうのとかろとへ伐来と
新ごとそのうろへ先八新ろいるのわていはぐ新ろのとこ月とて

而白くいく新くなまぬ来ぐろふて山ていあ〳〵姉〳〵やかろて受せのぢろ出て
い新〳〵やさろ八かろん〳〵後ろ海まぬ後ろ海まぬ後ろ海まぬ
新ろと新ふろう来のふ八ふ八ふ斗りくろろあてろのやろ八ろ
新ろ八ろ月ろ八先でれまの宗ふて今浪ろて。ちやこぬのくぬんで
ころく。ちんぢ白。といふ七宗の月一ろ又伐ふ元て八本天ち今ふ八ろ
ろの月八去性金今性ふと新生ヨ七も新きおやけるく百宗の
天やろ八月伐百宗数とりて百代ろ宗代ろ宗代ろ宗

ぞ出来ぬ夕べ出来の夕べ月まは入れおのれ小むとちりく夜の夜の
秋の風のまへ方あてんぐんとさきまてそ線を結へ今宵秋夜のよ
はの仏事事と孝とをあり法夜のよとたく附ハ色生滅法とひく
くうり之え釈の縁の変ハ生滅〳〵乃入れハ寂滅乃楽しきを
もるハ善提の人をもてむ方新波のちや初潮のよ志んめぐむ波頃
魔のをわるひハ左京小十三ゑ仏世の中ふむりんの法意法のかゝハ花の
ゑまさの逆縁をまつうをやゑ文行うゑの変さけハあらめとり是のゑ
と行ハ秋と人今をあるをかしこひうをいもかう行ハ色の夜ふをるの
う行ハ色さこのあり又ハ歌まもう行こよを異ハぬるゆうをい法乃
ゑの浮世と拾ゑ人の心のめさづのよ愛おどうゑ夜明の
うをまの月新ハ公まうをて月ゆうをうさ社の月ハ行ゑ是めとく
是のよを法拾小ハうをの法ゆ法ゆ法ゆ

屋うひ豆腐かぐ八月まる八月のまゝ祝のうどハたらうも祝ちあ酒ちく
へきかゝまゝ一同小寿とあばゝちゝもさゝ生きんせ明王うんぎうと生やまま
き明王西方小六姫ゝゝ明王北方小こんごうぐ小きてやろ明王中央小牛一
大ちん姫乃出ちう生ちゝぬうきうくの今の山姫と祝ろ上八祝ろ盗ハ宵
ぬん山祝こそそもゝ生そもゝ屋ゝ祝ぎ黒ゝたゝけ小ぐすをてんぐ小ゝ
ぐれ姫乃のぬんぐさろう祝ちけゝと、のゝ祝ら道よゝ祝ぐゝ戸びゝハひゝき
つゝち祝ゝ戸びゝハひゝくゝぐゝとゝえくゝしアレえんよ山ゝ八ひゝゝゝ道ゝちて
禁制南妙尼潤ゝ祝也都蓋狗尼接尼接乃一代盗絨敬ゝ身上
向後停止衰懸紗文衰懸自道のみぎんをいハたゝお山ぶの内
ゝぐきぐゝ祝ゝ祝ゝきかつゝしまゝ祝ぶぐまゝゝきゝ上つて吐息をはゝゝ
ゝのちの門ぬゝえんぐゝ上げ小ゝ明王十ゝ八ゝしぐんぎや来八秋が中
小海ゝゝゝ